

## 広島・草戸千軒町遺跡

- 1 所在地 広島県福山市草戸町
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)二月～十二月
- 3 発掘機関 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
- 4 調査担当者 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所代表 松下正司
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本年度は中洲北部を調査し、柵に囲まれた集落の一端が明らかになった。木簡はSK一三〇〇土壙、SE一五〇一・一六八二井戸、SD一三七五溝、SG一七一〇池などから出土した。このうちSK一三〇〇からは長方形の板材に墨書したものが五二点、SE一五〇一から削屑が六六六点出土している。SK一三〇〇は長径七・九m短径六・二m×深一・二mを測る土壙で、底部には青灰色土層が、上部には黒灰色土層が堆積しており遺物が多量に出土した。出土状況から単なるごみ捨て穴ではないように思われる。SE一五〇一は径二・五～三mの掘方に一辺約一mの横棧型井戸側を据えたもので内部には暗灰色粘質土が堆積していた。

SK一三〇〇からは多量の土師質土器や古銭・石鍋・木製品(漆器・箸状木製品・下駄・草履状木製品など)などが、SE一五〇一

からは土師質土器・青磁碗・箸状木製品などが出土している。

### 8 木簡の釈文・内容

本遺跡から出土する木簡は、削屑を除けば従来は角材に穿孔したものの(A)が多かったが、今回は長方形の材の一端の左右に切込みを入れたものの(B)、ないしは長方形の材の一端を尖らせたものが多く出土したところに特徴がある。ただ内容的には、商人の帳簿・伝票ないしはそのメモに供されたと思われる、従来のものとの相違は見られなかった。

#### (1) ・くミあかしのれうニあふら

一かうを二百十文ニ□から

きのしやうのあふら

・くう十一月十八日より

はしめてあかす

26.5×3.5×7 082

Bタイプに属する付札。御灯明用の油一合を二百十文で「きのしやう」(木之庄か)から買ったことを示す。

#### (2) ・くミ□よと九めと百八十□<sup>「すか」</sup>

さかへのをと二郎らい十月

□く□三六月廿三日

26.9×3.3×7 082

来る十月にさかへ(坂部か)のをと二郎に用立てることを記した一種の覚えでBタイプの木札。「きのしやう」「さかへ」は共に



草戸千軒遺跡概念図

草戸に近接する農村と推察される。

(3) 〔<sup>呉筆</sup>メウまミそのしらけ

むき十一月廿四日 〕

十一月廿四日に精麦を取引きした時の付札。

235×25×7 032

(4)

〔かね□□□□□□□□四百□□□□

あ□ミかし廿三

もと百とりふん□□と□て

〕 〔一はかりて□□十月廿日

(5)

〔二百六十文□□□□

□□二文

六十□カミ□ 〕

カミを売買した時の覚え。

もと百とりふん□□□□とりて一人

廿□と百とり□  
一人とりて一人 〕

〔(右側面)  
(割書)

237×36×8 032

このほか折敷片に人名を記したものや、柿経、削屑、断片など総計七三六点が出土している。

# 9 関係文献

志田原重人ほか

「草戸千軒町遺跡第二四次発掘調査概要」

(調査研究ニュース『草戸千軒』六四)

一九七八年

山県元ほか

「草戸千軒町遺跡第二五次発掘調査概要」

(同右六八)

一九七九年

小都隆ほか

「草戸千軒町遺跡第二六次発掘調査概要」

(同右六九)

一九七九年

(志田原重人)